

「まちかどミーティング(地域巡回)」概要 (中央公民館)

日時・場所 平成 21 年 7 月 16 日(木) 午後 7 時～ 8 時 30 分 中央公民館
市民参加者数 40 人
市側出席者 市長・企画部長・総合政策課参事・地域情報課長・同課広報広聴係長・同係主査
財政課長・市民保険課長

市長市政報告 (19:00～19:37) ・「協働のまちづくり」と総合計画「“わ”のまち能代」の意義
・市役所変革における「笑顔」と「あいさつ」・「感謝と思いやり」
・「リサイクルポート」と「県北エコタウン構想」
・「バイオマスタウン構想」と「農業政策」

市民との対話 (19:37～20:30) Q 市の 3 年後までの活性化の具体策と、人口増加策についての考えは？
A この数年で雇用確保の数値が上がる見込み。各企業とも不景気で苦慮しているが、能代への進出企業は、人件費等の有利さで、ここを拡張し、他の工場を整理統合する動きがあり、雇用人数の増が見込める。
その後「エコタウン構想」と「リサイクルポート」を活用した発展へと年次的に結びつけていきたい。

Q 能代北高の移転に関する考えは？北高跡地に市役所を移転し、現市役所は文化財・美術等を展示する等文化エリアとして活用を図ったらどうか。

A 能代北高と能代商高の統合は時期等の調整で遅くなり、跡地活用等は今後の検討。市中心部にあり、市街地活性化に活用可能な最後の地であり、十分に検討したい。

市役所移転は、基金が足りず、新築は無理な状況。工夫が必要。

検討内容... 中心市街地活性化計画の重点区域内にあり、周囲の事業等を見据えて活用方策を検討していく。

市庁舎は整備方針を検討するため、本年度庁舎整備基礎調査を行っており、建設位置や施設規模、財源等実現の可能性の高い整備手法を検討し、平成 22 年度に方針決定する予定。その後提案の実現の可能性を検討したい。

Q 砂防林「風の松原」が、アカシアの樹勢拡大で死にかけている。「虹の松原」への対応と同様の予算措置を国へ要請を。

A 難しい問題。国でも「純粋林」と「混交林」の考え方(方針)が分かれている。市でも国へ早急な結論をと求め、「保存」と「活用」について国に足を運んでいる状態。理解を。

Q 自治会の高齢化も著しく、「限界集落」ならぬ「限界自治会」の様相。高齢者の閉じこもりなど近隣との絆も薄れ、実際に病人がでて近隣で気付かないことがあった。高齢者対策について、自治会でも行政の力を借りながらなんとかしたいと考えている。

A 「“わ”のまち能代」のメニューは地域の中での「助け合い」だが、現実には厳しく、以前は、「見守り」について郵便配達人が地域で声を掛け合う等したが、今はなくなった。新聞配達等も含めて、業界と「協定書」を取り交わすこと等も考えている。

検討内容... 22 年度から災害時要援護者避難支援プログラムの個別計画の策定を予定。要援護者の実態を民生委員・自治会が中心となり把握し、安否確認を兼ねた見回り・避難訓練等に結びつけたい。また、医療・福祉・介護等の関係機

関・団体等、郵便、新聞の配達員等高齢者宅を訪問する事業従事者等の協力を得ながら、地域包括支援センターを中心とした地域ケア体制の整備を進めたい。
地域の高齢者対策には、自治会長や民生児童委員の力も重要と考えられ、自治会連合協議会の各種会議でも、高齢者対策を話題としていきたい。

Q 能代球場だが、企業広告を期限付きで募集すれば、収入も見込めるのでは。併せて、郵送用封筒にも広告を募集するとか提供してもらおう等で経費削減が見込めるのでは。

A 広告は考えたい。しかし、現在景気の落ち込みが激しく慎重になっている部分もある。今後、財政のプラスになるよう検討したい。

検討内容...能代球場の企業広告は、甲子園予選等での使用会場としては相応しくないかと高校野球連盟から回答があり、現状では困難。封筒については、税外収入の確保も市の課題となっており今後検討したい。

Q 未婚者が増え、人口減が懸念される。対策を進めほしい。

A 行政も、結婚できる環境づくりを進めたいと考えているが、皆さんも昔いたような、“地域の世話焼き人”になって縁組みを勧めるように力を貸してほしい。

Q 除雪だが、広い道路はしっかりするが、4 ㍍道路は寄せ場所がないと圧雪だけする。雪解け時期には、雪が緩み、歩くにも不都合。圧雪は止めてほしい。

A 「圧雪」の指導はしていない。根本的にはトラック等で「排雪」を考えなければならないが、目が行き届かない面もある。不都合な場合は連絡をしてほしい。できるだけ小型車両を稼働して対処したいが、目が届かない。

検討内容...排雪は、市で積み込み機械かダンプトラックのどちらかを運転手付きで無償で貸し出すので、相談を。

Q 各地域の公園だが、整備にばらつきがある。年次計画での整備が必要では。

A 遊具等の不満はよくもらうが、公園数も多く、全部の整備は予算的に無理。今の計画は、地区毎の中心の公園から半径 4 ~ 500 ㍍の円を描き、重ならぬよう絞って整備すること。そこには児童の遊具のみではなく、高齢者の足腰の健康維持等にも有用なものも整備したい。将来的には、車で少し足を伸ばしたある程度広い場所に遊具を集める形での公園整備も考えている。

Q 様々な折に、大学教授等の知己を得る機会があるが、大学を退官した教授等と交流を持ち、執筆本の寄贈を受け、誰でも読めるような「大学図書館」を整備したらいかがか。

A なかなかコネクションを取ることが難しく、紹介してほしい。本等を図書館に寄贈いただければ、繋がりができ、様々な講座等への協力をお願いする機会もできる。

検討内容...図書館では、「郷土資料」の収集に力を入れており、寄贈は受けたいが、その他の執筆本は、特殊な専門書や学術書と思われ、当館では収集は行っていず、大学図書館の整備までは考えていない。

Q 高齢者問題は、隣近所互いに声を掛け合い、絆を強くすることが必要と思う。自治会でも取り組むが、行政の協力も得ていきたい。

A 自治会で率先しての取組はありがたい。市もできる限り協力したい。

Q 総合計画推進の「市民協働会議」やこの「まちかどミーティング」に加え、若者たちとの相互対話の機会を今後検討してほしい。

A 高齢化が進み、その政策も必要だが、この地に住む若者に魅力ある街にするための意見収集が不足していたと認識し、市役所内で、若手職員の「政策推進会議」を立ち上げた。

従来も、「ランチで対話」等で様々なグループと対話する機会があり、いつでも受け入れる体制ではいる。今後も機会を作るように心がけていきたい。